

- ①基礎・基本の定着を図るための指導方法の工夫と改善
- ②言語活動の充実を図る授業の実践

学力向上推進員 委員 校長（竹治 直樹） 教頭（小西 貴仁）  
 教諭 横田 ひびき 低学年担当（河野 恵美, 三原 菜央）  
 中学年担当（大塚 芽依, 坂東 洸）  
 高学年担当（清水 美穂, 田村 拓夫）  
 特別支援担当（藤川 鶴子, 横田 ひびき, 支援員（山田 知代））

校長  
竹治 直樹 印

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能は身につけてきており、授業には意欲的に取り組んでいる。 ●身に付けた知識・技能を他の学習や生活の場面において活用していない児童が多い。	①課題に根気強く取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ②問題や長文を読み取る力、文章を書く力を身に付ける。	①「めあて・学習活動・まとめ・振り返り」の流れによる授業ルールを徹底して行う。 ②音読やドリル学習を継続して実施し、月2回以上確認テストを行う。 ③視写、詩や短文などの暗唱を学期に1回以上取り入れる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分が伝えたいことを進んで書いたり、話したりできるようになってきている。 ●自分の思いや考えを筋道を立てて表現することや課題解決に向けて、思考・判断することが苦手な児童がいる。	①課題に対して、理由や根拠を明確にしながらか自分の思いや考えを発表したり、文章で表現したりすることができる。 ②話し合い活動等を通して、他者の意見を尊重し、自己の考えを広げ、深めることができる。	①作文や日記を書いたり、スピーチをしたりする機会を多く設定する。 ②1日1回以上、ペア・グループ学習の機会を設定したり、地域人材を活用した交流の場を増やしたりする。 ③ホワイトボードや ICT 機器を効果的に活用した発表や話し合い活動の時間を1日1回取り入れる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題については、真面目に取り組む、宿題の提出もほぼ全員ができています。 ●自分でめあてや課題を決めて、主体的に学習することは苦手である。 ●家庭での読書量に個人差がある。	①難しいことや苦手な課題に対しても、粘り強く取り組むことができる。 ②自分で目標を立て、家庭学習や読書に取り組むことができる。 ③学んだことを振り返り、課題を解決した達成感と次への課題意識を持つことができる。	①「家庭学習の手引き」「家庭学習がんばりカード」等で目標、方法を提示し、年2回の振り返りを行う。それを元に保護者と連携して、家庭学習の定着を図る。 ②朝の読書、週末読書を習慣化する。多読賞や完読賞の表彰、リーディングバディによる読み聞かせを年2回以上行う。 ③学習の「まとめ」や「振り返り」を行い、共有する場を設定する。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

